

KITOcat の開発と運用について

－地域・館種を越えた協働の事例－

武田昭子

刈谷豊田総合病院／東海地区医学図書館協議会東海目録ワーキンググループ

(協力：近畿病院図書室協議会)

書誌データベース；図書館目録；相互貸借；図書館間連携

1. 背景と目的

KITOcat (<https://www.melin.jp/>) は、近畿病院図書室協議会と東海地区医学図書館協議会（および㈱ナレッジワイヤ）が協働して開発した総合目録・ILLシステムである。もともと両会とも独立した目録・ILLシステムを保持していたが、システム管理業者のサーバーのクラウド化に伴う諸問題を受け、2011年に両システムの統合に同意、2013年に統合した新システムとしてKITOcatの運用を開始した。両会それぞれのシステムの成り立ち、統合に至るまでの経緯を振り返り、地域・館種を越えた協働の事例として報告する。また、KITOcatの果たす役割と未来への展望についての考察を示す。

2. KITOcat の概要

複数の図書館ネットワークが参加でき、参加館はID/PWを入力してシステムにログインし、自館の所蔵情報の修正や所蔵雑誌の検索、ILL申込書の作成等を行う。設定によって、自館の所蔵情報の公開範囲を変えることができ、受付を参加ネットワークのみに限定したり、一時的に中止するなど柔軟な対応が可能である。現在、近畿病院図書室協議会、東海地区医学図書館協議会、中国四国九州医学図書館ネットワーク、福島県医療機関図書室協議会の4ネットワークが参加している。

2014年5月19日時点の書誌レコード数は、冊子13,650(和6,769/洋6,881)、EJ2,600(和5/洋2,595)、パッケージ商品としてはメディカルオンライン、Clinical Key、Science Direct 病院版、JMLA コンソーシアム Springer パッケージ、Wiley STM コレクション、ProQuest が登録されている。なお、各ネットワークの雑誌・所蔵データおよび機関データの所有権はそれぞれのネットワークが有する。システムの所有権は㈱ナレッジワイヤが有し、それぞれのネットワークと年間利用契約を結んで運用している。

3. KITOcat の果たす役割と未来

近畿病院図書室協議会と、東海地区医学図書館協議会（東海目録）という2つのネットワークが、ILLのシステムという接点で地域・館種を超えて結びつき、その後も2つのネットワークが参加され、連携の輪がさらに拡がりつつある。より多くの医学系図書館ネットワークが参加されることで全国規模の相互協力に発展すること、その[器]としてKITOcatが活用されることを祈念するものである。